



緊急避難先を確認しておきましょう

「避難」＝「市の避難所（緊急避難場所）に行くこと」だけだと思っていませんか？
多くの人が一斉に避難してくる避難所よりも、よりよい選択肢があるかもしれません。
自分にとって最善の手段をいくつか考えておきましょう。

優先的に開設する避難所

西 方	真名子小学校 体育館
	関東ホーチキにしかた体育館（西方総合文化体育館）
都 賀	都賀公民館
	合戦場小学校 体育館
	旧寺尾中学校 校舎
	吹上公民館
	皆川公民館
栃 木	きららの杜とちぎ蔵の街楽習館（栃木市市民交流センター）
	国府北小学校 体育館
	南小学校 校舎
	栃木東中学校 校舎
	栃木西中学校 校舎
大 平	とちぎコミュニティプラザ（5コミ）
	学悠館高校 体育館
	大平中学校 校舎
	大平中央小学校 校舎
	大平南小学校 体育館
岩 舟	大平東小学校 校舎
	CITY GYM & SPA 遊楽々館（岩舟健康福祉センター）
藤 岡	岩舟公民館
	藤岡保健福祉センター
	藤岡小学校 校舎
	旧藤岡第二中学校 校舎

※優先的に開設する避難所の開設情報は、市ホームページや SNS などを必ずご確認ください。

親戚・知人宅、旅館

安全な場所に暮らす頼れる親戚や知人に日頃から相談しておく、いざという時に安全に避難できます。また、安全な場所にある旅館やホテルで災害をやり過ごす方法もあります。



車中泊・広域避難

安全な地域に車で前もって避難する方法もあります。車中泊する場合は、エコノミークラス症候群に注意しましょう。



市の避難所（左表）

市では、災害時にいち早く避難所を開設できるよう、市の避難所のうち、左表の 23 箇所を、「優先的に開設する避難所」として準備をしています。必ず市からの開設情報を確認してから避難しましょう。



自宅（安全な場所にある場合）

「ハザードマップ」で自宅の安全性を確認しておきましょう。自宅が安全な場所にあるならば、災害時は家から出ないことが一番。浸水想定区域内でも浸水深 50cm 未満であれば、自宅でやり過ごせる場合があります。



2階以上へ垂直避難（3m未満の浸水想定区域）

自宅が浸水想定区域内でも、浸水深 3m 未満であれば 2階でやり過ごせる場合があります（※）。すでに浸水が始まっている場合は、避難所へ移動するのは危険なことも。いざという時、2階で一晩過ごせるかを考えてみましょう。必要なものがあれば、あらかじめ 2階に置いておきましょう。※ 3m 未満でも、家屋倒壊等氾濫想定区域内にある場合は避難が必要です。



車の避難場所を確認しておきましょう

市では、車の避難場所として、民間事業者と協定を結んでいます。右表の協力施設の駐車場などを、災害時に車の避難場所として利用することができます。

協力施設名	住所	車両避難場所	利用可能台数（最大数）
栃木ヶ丘ゴルフ倶楽部	細堀町 376	屋外駐車場	約 200 台
イオン栃木店	箱森町 37-9	屋上	約 440 台
ビックマーチ栃木本店	箱森町 38-14	屋上または立体駐車場	約 334 台
ヤオハンアイム店	昭和町 3-1	屋上	約 115 台
とりせん大平店	大平町西水代 1837-1	屋上	約 100 台
ダイナム栃木岩舟店	岩舟町静戸 467-4	屋外駐車場	収容台数 496 台の一部

- ＊車の避難場所へは、栃木市がお知らせする開設情報を確認のうえ、避難してください。
- ＊避難が遅くなると道路が冠水する場所があります。早めの避難を心がけましょう。
- ＊冠水している場所があった場合は、無理に通行しないでください。
- ＊車の中で長時間座ったままだとエコノミークラス症候群になってしまう恐れがあります。十分注意しましょう。
- ＊避難情報が解除され周囲が安全な状況になったら、車両を移動してください。
- ＊駐車台数には限りがあります。また営業時間中は来店者もいますので、必ず駐車できるとは限りません。



防災ハザードマップを活用しましょう

防災ハザードマップは、地域の災害リスクや避難場所、避難に関する情報などを確認できる「命を守るための地図」です。災害はいつ発生するかわかりません。いざという時に慌てず避難できるよう、自宅や職場周辺の危険箇所を確認し、安全な避難先や避難経路をあらかじめ把握しておきましょう。日ごろから防災ハザードマップを活用して備えることが、自分や大切な人の命を守るにつながります。



市のホームページでも確認できます。



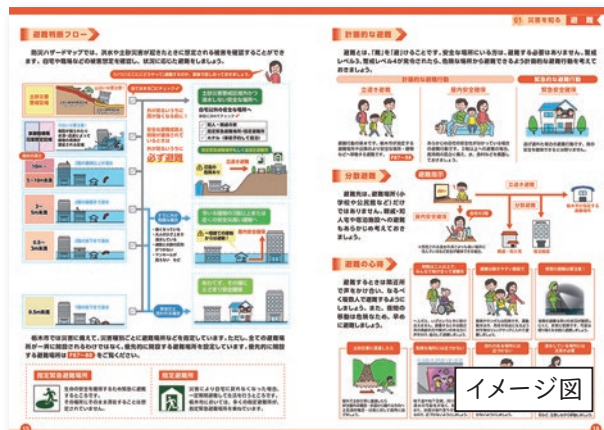
スマートフォンを持っている方はどこでもご確認いただけます。



避難について

防災ハザードマップでは、洪水や土砂災害が起きたときに想定される被害を確認することができます。自宅や職場などの被害想定を確認し、状況に応じた避難をしましょう。

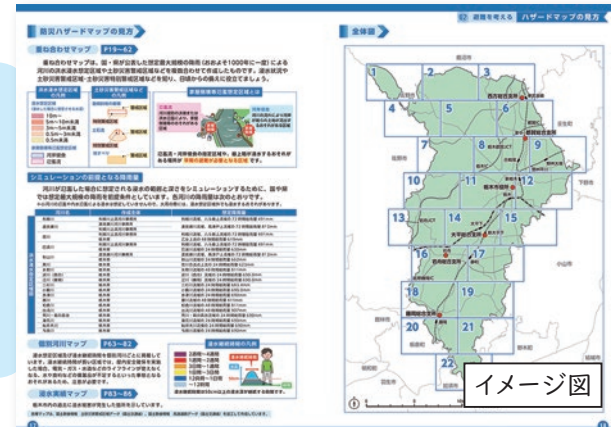
〈防災ハザードマップ P15～16〉



防災ハザードマップの見方

防災ハザードマップは、自然災害による被害の想定範囲や避難に関する情報が地図上にわかりやすく示されたものです。正しく読みとり、災害時に適切な行動をとるためには、その見方を理解しておくことが重要です。

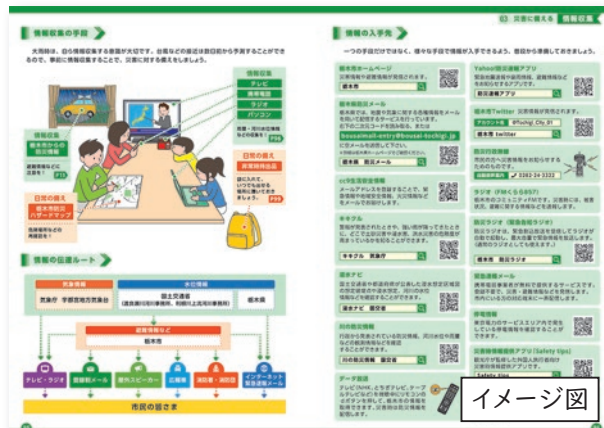
〈防災ハザードマップ P 17～18〉



情報収集の手段

災害時は、自ら情報収集することが大切です。台風などの接近は数日前から予測することができるので、災害に対する備えをしましょう。

〈防災ハザードマップ P95～98〉



非常用持出品・備蓄品

いざというときにすぐ持ち出せるように、日頃から準備・点検しておきましょう。非常時用備蓄品は、災害直後から混乱が収まるまでに必要なものです。最低 3 日分、できれば 1 週間分の備蓄をしておきましょう。

〈防災ハザードマップ P99～100〉

